

令和
6年度

埼玉県推奨図書



中学生向け

■埼玉県では、青少年のみなさんに
読んでほしい図書を薦めています■

ハーベスト



花里真希／著
講談社

3人しかいない園芸部に所属するぼく、西森くん、先輩のアズサ。彼らはそれぞれの事情を抱えながら、フランス語で菜園を意味する「ポタジェ」を作るために顧問の平林先生と奮闘する。他人と自分の違いや、人との付き合い方に悩む中学生に読んでほしい一冊。

アンナの戦争 キングダートランスポートの少女の物語



ヘレン・ピーターズ／作
尾崎愛子／訳
偕成社

アンナは戦火を逃れ、キングダートランスポートでイギリスへ渡る。両親に再会するため、イギリスの里親家族の元で懸命に暮らす。あるときアンナは、負傷した兵士を見つけ助ける。この兵士は実はドイツ軍のスパイで…。戦争や生き方を学べる一冊。

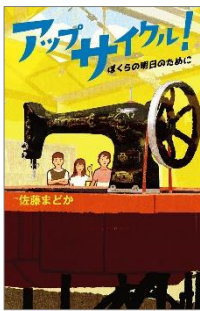
さみしい夜には ペンを持って



古賀史健／著
ならの／絵
ポプラ社

中学生のタコジローは、タコに生まれたことを悔やみ、学校にも居場所がないと感じている。しかし、ある日バスを乗り過ごした先で不思議なヤドカリおじさんと出会い、考える大切さや気持ちを書き出す大切さを教わったことで、タコジローは変化していく。

アップサイクル！ ぼくらの明日のために



佐藤まどか／作
木内達朗／装画・挿絵
ポプラ社

夏休みの課題研究として3R問題から廃材の利用工夫に注目して見出した「アップサイクル」という考え方。登場人物たちは様々な壁に立ち向かいながら、誰の気にも止まらないような廃材の活かし方を模索していく。

きみの話を 聞かせてくれよ

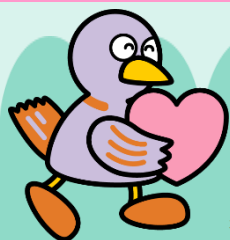


村上雅郁／作
カシワイ／絵
フレーベル館

新船中学校の生徒たちの物語。7つの章で登場人物が入れ替わりながら、クライマックスに向かい、互いの思いや行動が繋がっていく。もやもやする気持ちや心の傷、誰にも言えない秘密。そんな心にそっと寄りそい、話を聞いてくれる人がいる幸せを感じられる。

印象に残ったのは「黒野良輔」です。悩みを抱えている人の話を聞いて、解決につなげていきます。印象に残ったセリフは、「泣けるときは泣けるだけ泣いたほうがいいぞ」です。つらいことや悲しいことがあって泣きたいときには、泣いてもいいということをお黒野くんに教えられました。解決への道筋を示したり、アドバイスをしたりするわけではないけれど、黒野くんの言動によって、誰かの悩みが解決されていくのは、とても良いなと思いました。

熊谷市立大原中学校
3年生



埼玉県マスコット
「コバトン」

問合せ先：埼玉県 県民生活部 青少年課

✉ a2905-01@pref.saitama.lg.jp

☎ 048-830-2907

図書一覧はこちら

